研究プロジェクトの課題 ー「低まん延化の促進」と「世界の結核制圧の基地」を目指してー

結核研究所所長
石川 信克

結核予防会結核研究所は，2007年のあり方検討委員会提言に基づき，研究や活動の方向づけを行ってきた。まず今後10年間の全体の目標を，結核の低まん延化（10万対10達成）促進に資する役割を果たすこと，アジア・アフリカを中心とした世界の結核制圧の基地になることとし，4つの部（臨床・疫学部，抗酸菌レファレンス部，対策支援部，国際協力部）の構成，さらに「疫学情報センター」，「結核菌バンク」の2つの柱で，研究を中心とした活動を始めたことは，本誌324号(2008年11月)で述べた。疫学情報センターでは，国の結核登録者情報システムへの支援，「結核の統計」の編纂などと共に，様々な結核疫学情報が発信されている。菌バンクは，我が国の結核菌の保管や病原体サーベイランスシステムの構築を目指して歩みだした。本稿では，それらの活動や研究の枠組みについてさらに述べたい。

優先的プロジェクト課題への絞り込み

提言に示された優先的活動，研究内容の概略は，表のとおりであるが，横断的機能を持った従来のプロジェクト制は継続しつつも，焦点を当てた課題への絞り込みの必要から，来る数年間(概ね3年間)は，以下の4優先課題プロジェクトが設定された。即ち，1)感染診断技術プロジェクト，2)新抗結核薬・化学療法プロジェクト，3)分子疫学プロジェクト，4)　疫学調査技術支援プロジェクト(国際疫学実態調査が主）である。

その他のチーム研究(小プロジェクト)課題

さらに重要な課題に対しては，情報の収集，研究活動の窓口という意味で研究チーム責任者を指名し，随時チーム研究活動を継続していくということにした。それらは，a)アジア分子疫学，b)HIV/TB，c)対策評価，d)保健システムと結核対策，e)多剤耐性結核，f)潜在性結核感染症治療，である。

他研究機関との連携や協力

また研究の充実を図るために，いくつかの大学(長崎大学熱帯医学研究所，東京医科歯科大学，筑波大学，東京大学等）や研究機関とも積極的に共同研究や人的な交流を深める試みも始められた。

今後，これらの優先プロジェクトや小プロジェクト研究の計画や進行については，漸次報告していく予定である。

表. 結核研究所の優先的活動・機能（あり方検討委員会報告書 2007）

機　能	活動分野	内　容
研　究	疫学研究	疫学研究のベースとしてのサーベイランス 結核感染の実態（新しい感染診断技術を用いた応用研究） 分子疫学的手法を用いた結核疫学 TB/HIV に関する疫学と対策（国内，国際）
	対策研究	低まん延状況での結核対策のあり方 ハイリスク集団の結核対策 対策評価 医療提供体制のあり方(結核病床のあり方を含む) 日本版 DOTS の課題とその改善
	臨床研究	新しい治療法（新薬/新薬を含む治療法，耐性結核）
	基礎研究	免疫学的診断法（QFT，T-Spot 等）の基礎的研究 新抗結核薬開発 薬剤耐性菌・MDR 菌株の頻度およびその性状 感染の新しい診断方法の開発 分子疫学の細菌学的基礎研究
	国際研究	世界の結核の疫学研究 有効な対策実施のためのｵﾍﾟﾚｰｼｮﾅﾙ研究
抗酸菌レファレンス	高度な抗酸菌検査・菌バンク 国際 SRL	抗酸菌の同定・分与・保存 感染診断法（QFT，ELISPOT） 抗酸菌の遺伝子タイピング 菌検査に関する精度管理 WHO の協力センターであり，SRL 機能
対策支援	技術支援 人材育成 社会啓発	国・地方自治体の政策・計画策定や対策技術支援， サーベイランス情報の還元 研修（所内，ブロック，その他） 社会啓発・アドボカシー
国際協力	人材育成 対策支援 国際連携	世界の結核専門家の人材育成（国内，海外，当該地） 対策の計画・指針・戦略策定や評価に関与 重点国の対策実施に協力 技術支援(WHO の協力センター，JICA の技術顧問) WHO，IUATLD，TBCTA など国際機関との連携・交流